

大学生が直面する課題の学年別質的検討

廣瀬春香

(広島大学大学院教育学研究科)

目的

大学生は、学業・生活・人間関係・生活環境の各方面において、様々な課題の一度に経験する時期といえる。日本学生支援機構(2007)は、学生には入学から卒業まで、学年進行に伴った個別の課題とニーズがあるとしている。しかし、大学での課題を解決できずに大学を中途退学すること(文部科学省, 2014)や精神的に不安定になること(大西, 2005)も報告されている。そこで、大学生が直面化する課題について、学年別の質的な違いの有無について検討を行った。

方法

対象 欠損のあった75名を除く、大学生349名を分析対象とした(年齢範囲18歳~24歳, 平均年齢20.3歳, 標準偏差=1.24)。うち、1年生96名, 2年生95名, 3年生89名, 4年生69名。

手続き 無記名の質問紙調査を縁故法で実施。

調査時期 2016年11月~12月であった。

質問紙 フェイスシート(性別, 学校区分, 学年, 年齢, 所属)と, 最近経験した達成と感じた課題を想起させ, その内容を自由記述で求める困難課題の想起であった。

分析方法 自由記述の内容についてKJ法(川喜多, 1967)を参考に, 臨床心理学を専門とする大学院生3名で, 抽出, 分類し, カテゴリー名を決定した。カテゴリーの一致率を算出するために, 別の大学院生3名により, カテゴリーごとにカードを分類した。

倫理的配慮 質問紙の実施時には, 途中で回答を中止しても構わないこと, 質問紙は厳密に保管されること, データは統計的に処理され個人が特定されないことを明記した。広島大学大学院教育学研究科倫理審査委員会より承認を受けた。

結果

KJ法を用いて感想を分類したところ, 15のカテゴリーが抽出された(Table 1)。分類のカップ係数を算出した結果, $k=.745$ であった。

各カテゴリーにおける学年別出現数を用いてX二乗検定を行ったところ, (3)「学業の困難」($X^2(3)=11.970, p<0.1$), (5)「課外活動成績の自己研鑽の困難」($X^2(3)=20.857, p<0.1$), (6)「集団責任者としての困難」($X^2(3)=11.242, p<0.05$), (10)「将来

設計の困難」($X^2(3)=9.000, p<0.05$), (11)「卒業後進路の困難」($X^2(3)=23.867, p<0.01$), (12)「卒業要件・研究の困難」($X^2(3)=45.837, p<0.01$)が学年間で有意な差があった。また, 学年ごとの出現数に有意差があったカテゴリーについて, 再度X二乗検定を行ったところ, 有意な結果となった($X^2(15)=125.653, p<0.01, Cramer's V=0.488$)。残差分析の結果, (3)「学業の困難」は1年生で有意に多く($r=2.758, p<0.1$), 4年生で有意に少なかった($r=-3.791, p<0.1$)。 (6)「課外活動成績の自己研鑽の困難」は1年生が有意に多く($r=4.986, p<0.1$), 3・4年生で有意に少なかった($r=-2.721, p<0.1$; $r=-2.963, p<0.1$)。 (11)「卒業後進路の困難」は1・2年生で有意に少なく($r=-3.156, p<0.1$; $r=-2.426, p<0.05$), 4年生で有意に多かった($r=3.722, p<0.1$)。 (12)「卒業要件・研究の困難」も1・2年生で有意に少なく($r=-3.958, p<0.1$; $r=-3.812, p<0.1$), 4年生で有意に多かった($r=6.293, p<0.1$)。

Table 1.

困難課題		学年ごと出現率				合計
番	カテゴリー名 例	1年	2年	3年	4年	
1	自己の特性 コミュ障改善	4	1	2	1	8
2	生活習慣 朝起きられない	3	2	2	1	8
3	学業の困難 授業の課題	13	9	11	0	33
4	バイト業務遂行の困難 バイトで覚えることが多い	6	4	8	2	20
5	イベント開催の困難 学祭の準備	7	3	3	0	13
6	課外活動成績の自己研鑽の困難 コンクールで入賞するために練習した	16	9	2	1	28
7	集団責任者としての困難 サークルの代表	6	15	10	2	33
8	両立の困難 勉強とバイトの両立	3	4	2	2	11
9	自己研鑽の困難 英語力を上げるための勉強	15	20	9	9	53
10	将来設計の困難 将来が漠然としていること	3	5	0	0	8
11	卒業後進路の困難 就職活動	0	2	12	16	30
12	卒業要件・研究の困難 卒業論文が書き終わらない	0	1	15	27	43
13	人間関係の困難 友達との付き合い	13	10	6	6	35
14	恋愛の困難 恋人との関係	4	2	0	0	6
15	大学以前・その他 大学合格	8	7	3	2	20
		101	94	85	69	349

考察

大学生が直面する学生生活上の困難の中には, 学年によって出現数に有意な差があったことから, 質的に変化しているといえる。(3)「学業の困難」, (6)「課外活動の自己研鑽の困難」が1年生では有意に多く, 4年生にかけて有意に少なくなっていたことから, 学校適応や自己表現についての困難が生じ, それらを克服していくと考えられる。一方で, (12)「卒業後進路の困難」と(13)「卒業要件・研究の困難」は4年生にかけて有意に増加していたことから, 社会進出に向けた具体的な困難が生じていくと考えられる。